



第111号

2023年5月25日

発行：日本社会臨床学会 事務局〒113-0021 東京都文京区本駒込5-46-10 子問研

e-mail: shakai.rinsho@gmail.com

日本社会臨床学会第31回総会プログラム

総会テーマ：「アッセンブレアで語り合うフェミニズム，ケアワーク，精神医療」

日時：2023年6月10日（土）～11日（日）

会場：神奈川県藤沢市 遊行寺信徒会館（JR・小田急藤沢駅北口から徒歩15分）

住所：藤沢市西富1-8-1 当日問い合わせ電話番号：090-2672-8435（事務局/伊藤）

※駅から遊行寺までの地図などは巻末に付けています。ご参照ください。

日程：総会1日目

6月10日（土）

9:30～会員受付開始

10:00～12:00 日本社会臨床学会年次総会

第16期運営委員選挙

12:40～一般受付開始

13:30～16:30 アッセンブレア：「フェミニズムと労働と能力主義」

18:00～21:00 夜間交流会

※1日目は、希望される方は信徒会館2階で宿泊可能です。申し込み締め切り5月30日。

総会2日目

6月11日（日）

9:30～12:30 アッセンブレア：「あらためてケアワークを問う」

13:30～16:30 アッセンブレア：「精神医療について語り合うアッセンブレア」

お申込み方法

学会ホームページかFacebookにアクセスいただき、事前申し込みフォームからお申し込みください。当日申し込みも可能ですが、夜間交流会参加希望の方や遊行寺への宿泊希望の方は事前にお申し込みください。

申し込みフォームのリンク

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfc9Mw3pXpjEUx0qtJ9KkQ8Bp0IKrwRhrUTAsG7Ial2cvxltw/viewform>

※情報保障が不十分(手話通訳の方をお呼びすることができません)ですが、その場にいる人たちで、一緒に考えて工夫したい所存です。

※託児はありませんが、その場にいる人たちと一緒にごちゃごちゃやりましょう。

6月10日(土) 13:30~

「フェミニズムと労働と能力主義」

フェミニズムについてはさまざまな語られ方がありますが、このアッセンブレア(車座で語り合う集い)では、「能力があるのに女性だから大学入試で落とされることや、女だから管理職になれないといったことは女性差別なので解消されなければならない」「男社会のなかで権威ある男に媚びずに仕事をし、性別役割を率先して担わず、自立して生きていくために努力する」という話では解放されない、「能力がないとされた女性はどうなるの?」「1日8時間週5日働くななんて無理…だるすぎん?」「媚びてないのに媚びてると言われても何て返していいかわからん。話すのも嫌になるっしょ?」などの問いからはじめたいと思います。それとともに、体制内や制度内に入るための議論や社会運動を展開することの問題性、制度から外れて自己責任でなく生きることを展望したい。まずは、『ぼそぼそ声のフェミニズム』で「のんびりする」はそれだけでも抵抗」だと提起してくれた栗田隆子さんをお迎えして、運営委員の伊藤と対談し、その後、みなさんと車座でもっさりぼそぼそ語りあいたいと思います。

発題者プロフィール

栗田隆子(文筆家)

1973年生まれ。大阪大学大学院で哲学を学び、シモーヌ・ヴェイユを研究。その後非常勤職や派遣社員などのかかわら女性の貧困問題や労働問題を中心に新聞・雑誌等で発言。

2007年から雑誌『フリーターズフリー』を編集委員の一員として3号まで出版。2008年、「女性と貧困ネットワーク」呼びかけ人となる。2014年~2017年、「働く女性の全国センター(ACW2)」代表。

著書に『呻きから始まる 祈りと行動に関する24の手紙』(新教出版社)、『ぼそぼそ声のフェミニズム』(作品社、2019年)。共著に『高学歴女子の貧困——女子は学歴で「幸せ」になれるか?』(光文社新書、2014年)など。

伊藤書佳(運営委員)

1969年生まれ。編集者・ライター。「不登校・ひきこもりについて当事者と語りあう いけふくろうの会」世話人。「学校解放運動とフェミニズム」「マイノリティと社会運動の現在(いま)連続公開研究会講演録」(早稲田大学リポジトリ)、『自立へ追い立てられる社会』(共著/インパクト出版会)など。

司会: 土田麻子(運営委員)

6月11日(土) 9:30～

「あらためてケアワークを問う」

「ケアワーク」という言葉は、広く高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉・看護でよく使われます。分野に応じて介護・看護・保育・療育など様々な日本語が当てられます。手厚いケアには手厚い予算措置が必要であることは当たり前ですが、日本では「エッセンシャルワーク」と持ち上げられる一方で、労働条件は低劣なまま置かれています。また、ケアの水準も十分ではなく、いまだに大規模収容型モデルから脱却しているとはいいがたい現状があります。

しかしそうはいっても現場レベルでの創意工夫の積み重ねや、ケア労働者・サービス利用者の連帯・協同の萌芽など、くらしに根差した「抵抗」も捨てたものではありません。大規模収容・管理と収奪のケアから、くらしに根差した連帯・協同のケアへと大風呂敷を広げませんか。ケアワークを私たちの手に取り返すべく、車座で現場の実態、従事者の思い、当事者の要求・要望など語り合いたいと思います。

発題者プロフィール

中川貴之(運営委員)

経験：元作業所職員、元グループホーム世話人

斬り込みたい問題：障害者の高齢化



松木宏史(運営委員、大阪国際大学短期大学部教員、社会福祉学)

大学卒業後、救護施設で勤務。大規模収容型施設の限界に直面しながら、重複障害者の介護や地域移行支援。作業などの援助にかかわる。現在は保育士養成校の教員。将来ケア(保育・療育)の道を目指す学生への指導にかかわっている。

6月11日(土) 13:30～

「精神医療について語り合うアッセンブレア」

メンタルヘルスで生物医学モデルを支える多くの概念は、研究を積み重ねても立証されるに至っていません。国際疾病分類(ICD)や精神疾患の診断・統計マニュアル(DSM)などの診断ツールは、多くの場合で確固たる科学的根拠がなく、個々の診断のパラメーターを拡大し続けています…。「疾患」に焦点を合わせて個人を治癒しようとする支配的な医学モデルを放棄し、社会全体での政策の革新を重視し、社会的な決定要因に焦点を合わせたアプローチへと早急に転換する必要があります。メンタルヘルスの政策は、「化学物質の不均衡」ではなく、「力の不均衡」に言及すべきです。(人権高等弁務官事務所 Office of the High Commissioner for Human Rights, 2017, p19)～下記「PTMF」p198より「最近の国連レポート」

「踊り念仏」で知られる遊行寺100畳和室に車座で集まり、私たちの「民主主義」のあり方の分水嶺とも重なる精神医療について、参加者誰もが自由・対等に、司会も仕切らず対話し合うアッ

センブレア（イタリア精神病院制度廃絶に至る着火点となった患者職員集会の対話形式）を予定。とはいえゲストから口火を切る基調も満載。「病氣」をカッコに入れ、生きること、「人間する」ことに定位して精神病院制度を廃絶したイタリア地域精神保健制度の語り部・松嶋健さんを 2018 年にお招きし大好評だった同じ会場です。

その際、呉秀三以来のこの国の精神医療施策の「最初のボタンの掛け違い」を暴いた歴史学研究者の兵頭晶子さんが、5 年前のバトンもつなぎ、今回の口火を切ります。戦後「高度成長」期からの精神病院乱造・特例化・市民総合病院（地域）からの精神科病棟排除・長期入院・多剤大量投薬・拘束・虐待・死亡退院等、今年 2 月に発覚した滝山病院問題に至るまで、「病院監置」こそが「この国に生まれたるの不幸」であり続けていること、その歴史といま、未来を問います。

東京精神医療人権センターのホームページには、滝山病院問題の詳細報道資料が、今回ゲストの石原孝二さんらによってまとめられています。

<https://tokyo-seishin-iryo-jinken.jimdofree.com/>

「医療」の名の下に民主主義を破壊・侵食していく身体拘束の実態や裁判の実際、国会・厚生省、病院協会の直近の動向については、長谷川利夫さん著「「身体拘束」からみる失われる民主主義」『世界』2023 年 5 月号（岩波書店）でその詳細が暴かれています。その長谷川さんにも、急きょこのアッセンブレアへ駆けつけていただけたことになりました。

他方で DSM・ICD 診断・「脳内化学物質の不均衡仮説」・クロザリル単剤・ECT といった、一見、世界のスタンダードの如く脚色された「標準的？精神医学」群。これらは「生きること」「人間すること」の方をカッコに入れ、「病氣→治療」しか見ない「非人間的医療」の行き詰まりに拍車をかけるようにも見えます。あるいはコロナ対応禍でも露呈した、生活の医療化、政治やメディアの警備員化、「生かされる暴力」から殺される「脅威」、「力の不均衡」、格差が拡大していそうです。

三吉譲さんは、藤沢駅前で開業 37 年目の三吉クリニック院長。三吉さんと当事者会「お互いさん会」有志のみなさんからは、これまでの悪戦苦闘や到達点、現状からの発信をいただきます。石原孝二さんと松本葉子さんは、従来の精神医学パラダイムの転換をうたう「精神科診断に代わるアプローチ PTMF」（北大路書房・2023 年）の共訳者でもあります。「PTMF」とは「パワー・脅威 Threat・意味づけ Meaning・フレームワークの略記」。病理診断でなく「あなたに・私に、どのような事が起こっているのか？」、その事件や制度の「脅威」、それへの「意味づけ」を問題化し合い、その苦悩や対処法、制度変革等への「生き残り」の方法を構築しあう臨床への転換。英国心理学会界限での専門家目線への自己批判から近年発祥。される側に学び、する側—される側の協働臨床へとパラダイム転換する内容は、70 年代からの日本臨床心理学会内での自己批判・改革・分裂→日本社会臨床学会発足への歩みとも重なるでしょうか。

薬についても「精神疾患をターゲットに治療」と脚色されてきた「治療薬モデル」を丁寧に駆逐・論証、それとは異なる「薬物作用モデル」（＝精神薬は人の「疾患」でなく「心身状態」全般を変化させるのみ、その一部を助けに使用、あるいは「脅威」となる変化ゆえに不使用などを見極めるのみ、使用長期化や離脱後の諸変化は「原疾患悪化」でなく薬物作用、それが「脅威」となることへの調査欠落へも警鐘）の紹介も。このパラダイムは PTMF とも連動。J・モンクリフ著「精神科の薬について知っておいて欲しいこと —作用の仕方と離脱症状」（日本評論社・2022 年）参照。

石原さんと松本さんはこの共訳者チームの一員でもあります。

滝山病院や拘束はどう無くせるか？主役は当日ご参加のみなさん。実際どんな語り合いとなるか、始まってからの楽しみに！

ー進行ーアッセンブレアとは？

座布団車座の真ん中に椅子を円形に8席ほど用意。開始時にはゲストが座り順次基調スピーチをお願いしつつ（スクリーン前でのパワーポイント使用もあり）、必ず空席を設け、発言したい会場参加者は、自ら空席に座りマイクを取って発言。次の対話や基調スピーチが回るよう、臨機応変に席を空けていく。ゲストも単発スピーチのみでなく出入りを重ね、会場参加者や他のゲストと共にマイクを回し合う。企画者もその一人として参加。開始時の案内と休憩や終了以外の司会進行を仕切らない。

ーゲストプロフィールー

兵頭晶子：歴史学研究者。単著『精神病の日本近代—憑く心身から病む心身へ』（青弓社、2008年）、共著『時代がつくる「狂気」—精神医療と社会』（朝日選書、2007年）、『治療の場所と精神医療史』（日本評論社、2010年）を始め、日本の歴史と精神医療の関係を問うてきた。日本社会臨床学会会員、日本温泉文化研究会会員。遊行寺では2018年度日本社会臨床学会総会で、「精神医療とはそもそも何なのか。それは今、何なのか。—〈生の危機〉の視点から」と題したシンポジウムを、三吉譲氏・松嶋健氏・広瀬隆士氏・井上芳保氏とともに開催した。本総会実行委員。

長谷川利夫：杏林大学保健学部教授 精神科医療の身体拘束を考える会代表

著書：「精神科医療の隔離・身体拘束」日本評論社、2013年（単著）「病棟から出て地域で暮らしたい 精神科の『社会的入院』問題を検証する」やどかり出版2014年（共著）他。（論文）「隔離・身体拘束の急増に今、何をすべきか？ 精神科医療における隔離・身体拘束実態調査 その急増の背景要因を探り縮減への道筋を考える」病院・地域精神医学 59 巻1号 2016年「わが国の精神科医療における身体拘束の問題点」精神神経学雑誌 第122巻第12号 2020年 “The use of mechanical restraint in Pacific Rim countries: an international epidemiological Study” Epidemiology and Psychiatric Sciences Cambridge University Press 2020年（共著）他。身体拘束大臣告示が改悪されそうで、とにかく必死にやっています。

三吉譲：三吉クリニック院長。かつての東大闘争、70年代からの赤レンガ病棟自主管理に参加

し、勤務医としては陽和病院開放化の口火を切り、藤沢市内総合病院での精神科臨床の苦闘、看護グループ中心の上秦野病院「解放」化（→後に経営転売→越川記念病院事件となり告発）にも非常勤医として関わりつつ、1986年より藤沢駅前で開業37年目の三吉クリニック院長。「お互いさん会」は、そこで発祥した当事者会。

石原孝二：東京大学大学院総合文化研究科教授。著書：『精神障害を哲学する：分類から対話へ』（東京大学出版会・2018年）、『オープンダイアログ 思想と哲学』『オープンダイアログ 実践システムと精神医療』（共編・東京大学出版会・2022年）、『精神医学の科学と哲学』（共編・東京大学出版会・2016年）他。訳書：ジョアンナ・モンクリフ『精神科の薬について知っておいてほし

いこと：作用の仕方と離脱症状』（共訳、日本評論社、2022 年）、メアリー・ボイル、ルーシー・ジョンストン『精神科診断に代わるアプローチ PTMF：心理的苦悩をとらえるパワー・脅威・意味のフレームワーク』（共訳、北大路書房、2023 年）他。

松本葉子：薬剤師・精神保健福祉士。声を聞くとはどういうことかに関して考えている。訳書にジョアンナ・モンクリフ『精神科の薬について知っておいてほしいこと：作用の仕方と離脱症状』（共訳、日本評論社、2022 年）、メアリー・ボイル、ルーシー・ジョンストン『精神科診断に代わるアプローチ PTMF：心理的苦悩をとらえるパワー・脅威・意味のフレームワーク』（共訳、北大路書房、2023 年）。

「私たちは声を聞くことができるのか」『統合失調症のひろば』2021 年春号（通巻 17 号）、「急がない治療」『統合失調症のひろば』2020 年春号（通巻 15 号）など。

—企画— 山田悠平（本学会第 15 期運営委員）／広瀬隆士（同運営委員長・上記文責）

日本社会臨床学会年次総会資料

こちらは総会 1 日目午前の年次総会資料です。
ご出席の際にこのニュースをご持参ください。

第 XV 期運営委員会活動報告（案）

定例運営委員会（1） 7月17日（日）13時～

- ・ 雑誌タイトルの英訳は著者に依頼する方針に変更
- ・ 投稿区分追加に関する投稿規定修正案を採用し掲載
- ・ 会員外の方から、ある論文への反論掲載の申し出があったが、
当該テーマに対する本学会の立場と社臨誌の趣旨をお伝えしてお断りをした。
- ・ 運営会議への会員の参加手順：運営委員推薦もしくは事務局メール
 - ・ 第30回総会シンポジウム等の雑誌掲載準備
 - ・ 第31回総会（次年度5月が目処）開催準備

定例運営委員会（2） 9月11日（日）13時～

- ・ 運営委員会等の開催通知：フェイスブック、ホームページでの事前告知を徹底
- ・ 会員名簿管理：山田委員が助力を表明
- ・ 田中康夫氏のワクチンシンポジウム口述筆記原稿：本人に問い合わせる
- ・ 総会報告の雑誌掲載：1 号が無理なら 2 号で実施

- ・査読者の選定基準：運営委員会確認の上で会員以外も可
- ・究極Q太郎氏への寄稿依頼：受理迄進捗
- ・財務状況：郵便口座 43万9797円 ゆうちょ銀行 46万9815円
- ・運営委員会内連絡方法：メーリングリストから用途ごとに連絡できるスラックに変更.
- ・秋の学習会開催：11月上旬『心の治療を再考する』中島浩壽さん
- ・精神障害領域の世界的動向の確認：医学モデルから社会モデルへ
(日本の精神医療の現実：障害者権利条約批准するも医療観察法残存)
- ・ヤングケアラー：「問題を個人に還元している」(英国) 親の側に給付等の援助がないことが問題,
「ダメ親」問題ではない.
- ・次回総会の発題1：「社会適応」は展望がない→「社会モデル」提案
- ・次回総会の発題2：フェミニズム

臨時運営委員会(3) 10月9日(日) 13時～

- ・秋の学習会企画
- ・次回総会会場：遊行寺信徒会館6/10～11(土日)に内定

秋の学習会「反・臨床心理学はどこへ消えた？ー そんな汽笛に誘われて」 11月12日(日)

- 1, 中島発題 「社会臨床学会の姿勢と『臨床』への問い」
 - 2, 河野さんから卒論主旨発表
 - 3, 石原さんから指定討論
 - 4, 三者での対話
 - 5, 会場との対話
- ・会場：神奈川県地域労働市民会館 参加費1000円, 割引5000円。

定例運営委員会(4) 11月13日(日) 19時30分～

- ・秋の学習会ふりかえり：歴史を振り返る重要な学習会となった
参加人数：28名(会員13人, 非会員15人) スタッフ含めると34人ほど
受付の人手が足りなかった.
- ・次回は2次会ができるように昼にしたい
- ・雑誌進捗：<29巻2・3号>12月3日・4日で発送、<30巻>投稿論文査読分担
- ・次回総会：遊行寺のつくりを活用して車座でやってみたい
- ・運営委員の立候補呼びかけ：選管に依頼

臨時運営委員会(5) 12月13日(火) 19時30分～

- ・査読者分担確認
- ・次回総会企画：

アッセンブレアを用いる：イタリア精神医療の患者職員集会

座布団の輪を作る，発題者が入る．発言希望者は輪に入る．発言終了者は輪から出る

テーマ案1：『社会臨床』からコロナと精神医療を問う

テーマ案2：「ケアとは何か」

（ひきこもり、自立、就労、自己肯定感、支援、やまゆり園、クリニック放火事件）

定例運営委員会（6） 1月8日（日）13時～

・雑誌進捗：

1号：総会報告シンポI テープ起こし済み、投稿論文3本、依頼論文

2号：シンポII

アートのコーナー：「あつまれ アートの森」はどうか→写真掲載等

査読状況

・学習会報告

・次回総会準備：遊行寺下見へ（プロジェクター，Wi-Fi）

ボランティアスタッフの募集→継続審議（会費の減免）

「声明」を作り上げる車座の話ができないか（精神保健福祉法パラダイム）

栗田隆子さん呼びたい（『ぼそぼそ声のフェミニズム』）

ケアワーク（老人介護、支援、放火事件、精神障害者の高齢化、親の介護）

タイトル（仮）：「アッセンブレアで語り合うフェミニズム，ケアワーク，精神医療」

お話し交流（幹事：伊藤委員）

次期運営委員選管：戸恒さん，一木さん

選挙日程：ニュース3/20ごろ→（4/20立候補×切）5月立候補声明ニュース→6月総会

第1回総会実行委員会 2/23（木・祝）遊行寺門前

会員4名参加。実行委員長（松木）を選任

会場設備等確認

総会テーマ：「アッセンブレアで語り合うフェミニズム，ケアワーク，精神医療」

テーマに沿って担当者を決定。

フェミニズム（伊藤・土田），ケアワーク（中川・松木），精神医療（広瀬）

第2回総会実行委員会 3月12日（日）10時～

当事者団体『おたがいさん会』から2名参加

各アッセンブレアのテーマについて進捗確認

総会のタイムテーブル確定

定例運営委員会（7） 3月12日（日）13時～

- ・雑誌進捗：前回に比して投稿3件、依頼1件が著者校正に
- ・査読協力員制度：設けることはできないか
- ・ニュースの発行：3月21日発送，
総会のお誘い（松木），実行委員会のお誘い（松木），立候補呼びかけ（選挙管理委員会）
会費納入のお願い

・次回総会準備：

- 実行委員は総会参加費無料：お互い様会から呼びかけ、各分科会に付いてもらう
（会場設営 会場案内 介助等 受付補助 書籍販売補助）
- 運営委員選管：戸恒さん、一木さん
- 昼食：弁当を用意（発題者・実行委員・運営委員）
- 参加費 3000円（全日程）2000円（一日のみ参加）各半額（学生他割引）
- 監事：池田さん、池見さん

第3回総会実行委員会 4月9日（日）10時～

- ・企画，日程の確定
- ・宣伝，広報についてその方法をどうするか．SNSの活用．フライヤーの作成．

臨時運営委員会（8） 4月9日（日）13時～

- ・佐々木賢さん追悼：総会で報告，夜間交流会でも話題に、雑誌に追悼文
- ・滝山病院事件への声明：素案担当（広瀬）
- ・総会：プログラムおよびタイムテーブルを検討
- ・ニュース発行：5/14運営委員会のあとすぐ発行（総会プログラム，立候補声明，活動報告、予算決算）

第4回総会実行委員会 5月14日（日）10時～

- ・夜間交流会の企画について
- ・当日の動きについて確認

臨時運営委員会（9） 5月14日（日）13時～

- ・次回総会準備
総会配布物の印刷：戸恒
レジュメ、書籍受け取り（無理なら広瀬さん職場）
前日宿泊者（竹村，関田，伊藤，中川，戸恒，丸山）
6/10（土）8：30から設営（机6，椅子25）

弁当の調達（広瀬：個数管理）

9:00 実行委員集合

10:00 年次総会開始

12:30 外部受付開始

受付：戸恒，丸山，山本，竹村，関田

書籍：兵頭，中川，広瀬

会場誘導：お互いさん会

音響関係：中川

・5/25 ニュース発送：5/19スラックでニュース関係締め切り

フライヤー：松木（下案）→中川

ニュース：松木→Facebook, Homepage

総会議長：茂木（台本）→松木、土田

活動報告：中川

予算決算：伊藤→池田、池見（監査）

フェミニズム：伊藤、土田

ケアワーク：中川、松木

PTMF：広瀬

第5回総会実行委委員会 6月4日（日）10時～

臨時運営委員会 6月4日（日）13時～

※会計報告案については、定期総会当日に追加資料として配布させていただきたくお願いします。

2023 年度活動計画案

- 1, 第31回総会・アッセンブレアの開催（6/10・11 於：遊行寺）。
- 2, 学会運営の遅滞対策として、「運営協力委員」を募集（6/10 総会にて決定・募集開始）。
- 3, 第16期運営委員会の定例（臨時）開催 →新役員選出／→第15期より継続・積み残し事業の
実行／→新事業の計画・実行。→以下4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11
- 4, 発刊の遅れている「社会臨床雑誌」第30巻1・2号と、同第31巻1・2号の発刊。投稿・寄
稿募集。査読（有無）体制への再検証・再構築。
- 5, 「社会臨床ニュース」の発刊。
- 6, ホームページ／フェイスブックの更新。
- 7, 学習会（オンラインや合宿・他学会・団体等とのコラボも含む）の開催。
- 8, 新入会員の募集・宣伝。
- 9, 第32回総会の準備・開催。
- 10, 入会時、又は現会員の年会費納入困難な場合、減免を工夫できるようにする。詳細は第16期
運営委員会で決定できるよう、6/10 総会時に承認を得る。
- 11, その他

第 XVI 期運営委員立候補声明（順不同）

日本社会臨床学会第 XVI 期選挙管理委員会 一ノ木勝・戸恒香苗

2023年3月20日発行の『社会臨床ニュース』第110号掲載「日本社会臨床学会第 XVI 期運営委員立候補募集について」で、日本社会臨床学会第 XVI 期運営委員立候補受付についてお知らせしました。その結果、名の会員より立候補の届け出がありましたので、会則に則りここに立候補者の立候補声明を掲載します（なお順不同にて掲載させていただきます）。立候補者は2023年6月10日（土）開催予定の日本社会臨床学会第31回定期総会にて会員の承認を受けることになります。なお、立候補者にあつては、第31回定期総会にて会員の承認を受けることになりますので、必ず定期総会にご出席を願います。万一、拠ない事情等でやむを得ず欠席される場合は、選挙管理委員会までご連絡ください。選挙管理委員会への連絡は事務局宛にお寄せいただければ、選挙管理委員会よりご連絡させていただきます。

日本社会臨床学会第 XVI 期運営委員会選挙管理委員会連絡先

事務局メールアドレス: shakai.rinsho@gmail.com

事務局住所: 〒113-0021 東京都文京区本駒込 5-46-10 子問研 日本社会臨床学会

日本社会臨床学会第 XV 期運営委員への立候補趣旨

高木 剛

当学会は「臨床という営為を点検・考察し、更にそのあり方を模索すること」を目的としており、「人間の悩みや想い、その背後にある社会の矛盾・問題を既成の学問の枠組みやその方法にとらわれず自由に考える場となること」をめざしています（会則第3条）。

当学会はこのような重要な役割を担う組織でありながら、近年、サイトからの情報発信や機関誌の発行などの実状を見ると、乗り越えるべき課題が少なからずあるように感じます。「私に何かできることはないだろうか」と自問自答したところ、当学会の一会員として、更なる発展のため運営に参加・協力したいとの思いが湧いてきました。微力ではありますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願いします。

広瀬隆士

第16期運営委員に立候補します。本学会存続へのバトンが次世代に繋がりますように。問題は山積し手に負えない状況。一身の寿命ではお手上げ。

新旧いずれの精神医療下でも、身体拘束は今尚諸外国の数百倍。「〈許されざる事態〉身体拘束からみる、失われる民主主義」（長谷川利夫『世界』2023年5月号）の警告通り。コロナ対応禍とも併せ「医療」絡みの民主主義崩壊が日常化？（KP）神奈川精神医療人権センターや生活介護パート現場でも悪戦苦闘。貧乏暇なし、胃痛、不眠、自転車操業のこの二年間をお詫びしつつ。

茂木 毅

私はこれまで生命倫理（最近は主に死生学）を学んでまいりました。そのような私が、2022年10月に大腸穿孔のため救命緊急手術を受けストーマ（人工肛門）になりました。幸い、2023年1月にストーマ除去手術を受けることができましたが、一時的とはいえ「ストーマ当事者になったこと」、

「死に瀕すること」を体験しました。生と死について「当事者の苦悩」を初めて知ったのです。今後は、「当事者の苦悩」という視点に重きを置き、生命倫理について学んでいくつもりです。

今回の体験を通して学んだことを加味し、日本社会臨床学会の運委委員として活かし、微力ながら学会の発展に寄与いたしたく、第16期の運営委員に立候補させていただきます。

榊 恵子

ボランティアとしてと仕事としての違いは、当事者活動にも影響すると感じます。仕事の場合は組織や役割に沿った行動を求められ窮屈なところが出てくると思います。看護も家庭での看護と、職業としての看護とは、上記と同じように違うところがあると思います。

社会が大きくなると、どうしても役割分担が発生します。医療や福祉職の場合は、役割を担う者が、社会から本人の生活や健康を守られていないと、なかなか対象中心の仕事ができないのではないかなと思うところです。守られない制度上の問題があり、そのはざまに落ち込んでしまうように思います。役割が倫理的に保てないと思えば辞めるか、開き直って働くかと（そんなに極点ではなくとも）なるかもしれません。

運営委員について、皆さん、当事者性を前に出して立候補されていますので、私の場合、少数派になり（ひとければ孤立）肩身が狭いと感じます。

また、運営面で何ができるか？と考えた時、なかなか思い浮かばず貢献できるところが見つからないところです。

しかし、立場が異なる委員が存在する意義もあると思い、ひとまず肩身や貢献のことは留保しつつ、まだ迷いながらですが立候補します。

松木宏史

第XVI期運営委員に立候補します。

事務局体制の確立に力を注ぎたいと思っています。社臨には様々な思いをもってたくさんの会員が集っていますが、担い手不足の影響もあり安定的な学会活動に関して課題が山積しています。微力ではありますが、会員の皆さんの信頼を得られるよう努力します。そして、医療・福祉・心理その他さまざまなくらしの「現場」のあれこれを考えあえる場にしていければと考えています。

伊藤書佳

第XVI期運営委員に立候補します。

1980年代、中学2年生の秋に学校に行かなくなってから、学校のみならず教育や国家というものを疑うようになりました。お花畑と揶揄されながら、能力主義からの解放について考えています。

『社会臨床雑誌』第1巻第1号に書かれた「はっきりしていることは、アナクロニズムと言われようと、多数派を目指さないということだ。そして、変に「現実的」になることもない。多数派を目指して「現実的」になり、ミイラ取りがミイラになるよりは、“＜社会＞的に有意義なことはなにひとつやりたくない”とつぶやいて寝ている方がましかもしれない」という山下恒男さんの一文が大好きです。される側に学ぶだけでなく、する側の自己点検が重要だと考えています。ひきつづき会計と『社会臨床雑誌』の編集作業をしていく所存です。温泉合宿もあきらめていません。

勝山実

第 XVI 期運営委員に立候補します。ネット関係の作業を担当したいと思っています。

丸山洋平

学会運営に参加します。よろしくお願いします。

やまもと・たかし

ここ数年コロナ禍などもあり、人と出会い、直接話し合うことが、私自身以前よりできなくなっていることに、危機感を抱いています。現在、知的障害のある人たちと関わっていますが、他の領域の社会矛盾・社会問題に疎く、それらを取り組んでいる人たちと出会えていないことは、(「する側の」) 自己点検を十分できず、とても大切なことを捉え損ねているような気がします。

いろんな背景・立場の人たちと共に、『社会臨床』を点検・考察していることにおいても、根本的な問題提起をしてきた／している、社会臨床学会は本当に稀有な場だと、私は思っています。さまざまな立場の人たちと出会い、社会矛盾・社会問題を、共に考え、深く(できれば楽しく)話し合える場にしていきたいです。

中川貴之

(立候補)

加齢に伴い、視力の著しい衰えにより、細かい作業ができなくなりました。今後は、少量の作業しかできないのですが、なんとか意義ある学会に貢献致したく。引き続き、末席に加えて頂きたく立候補致します。

(興味分野)

興味分野は自殺予防で、毎週3日、匿名で電話相談を受けております。神奈川県では、三吉クリニックと広瀬さんの人脈を通じて、B 型作業所の立ち上げを2年間、グループホームの立ち上げを3年間、担当させて頂きました。

(私の希望)

現在は、地元に戻り、高齢の友人達の緩和ケア、自分の将来に向けての認知症対策への提言が山ほどあります。親しくしてくださった、精神障害に苦しむ友人達の未来が、1ミリでも良くなる事が、私の希望です。

土田麻子

ホームページのメンテナンスや総会企画などで関わらせていただけたらと思い今年度も立候補いたします。

日本の精神医療の遅れに対し異議を唱えることをこの学会を通して実践していきたいです。また精神医療分野のみならず広くリベラルアーツを中心に関心があります。抵抗し続けることをモットーにがんばります。

竹村洋介

しばらく運営委員をやっていなかった時期もあり、また運営委員であっても熱心に活動していなかった時期もありましたが、第15期はそれなりに活動したつもりです。

関心のあるテーマは教育、精神医療、音楽、福祉など、幅広いのですが、とりあえずは身近なことからアプローチしていきたいと思います。いままでできていなかったことの反省点として、さらに社臨誌の査読などに力を入れ、質の向上につながればと思います。

山田悠平

第16期運営委員に立候補します。15期に続けてよろしくお願いします。

訃報

本学会創設から31年の長きにわたり学会運営に尽力されたお二人の訃報をお知らせします。

佐々木賢さんが、3月13日に享年90歳にて逝去されました。

篠原睦治さんが、5月8日に享年84歳にて逝去されました。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

会費納入のお願い

日本社会臨床学会第XV期運営委員会

日本社会臨床学会の活動は、会員の皆様のご納入くださる会費にて賄われています。今年度会費未納の会員の方にはお手数をおかけしますが郵便振替にて以下の口座まで会費の納入をお願いいたします。年会費は6000円です。

郵便振替：00170-9-707357 日本社会臨床学会
(ゆうちょ銀行 店名〇一八 普通預金 0601545)

◆遊行寺までの地図と行き方



■交通(最寄駅)

【藤 沢 駅】 JR 東海道本線・小田急江ノ島線・江ノ島電鉄

【藤沢本町駅】 小田急江ノ島線

■藤沢駅より

●徒歩:藤沢駅北口より約 15 分

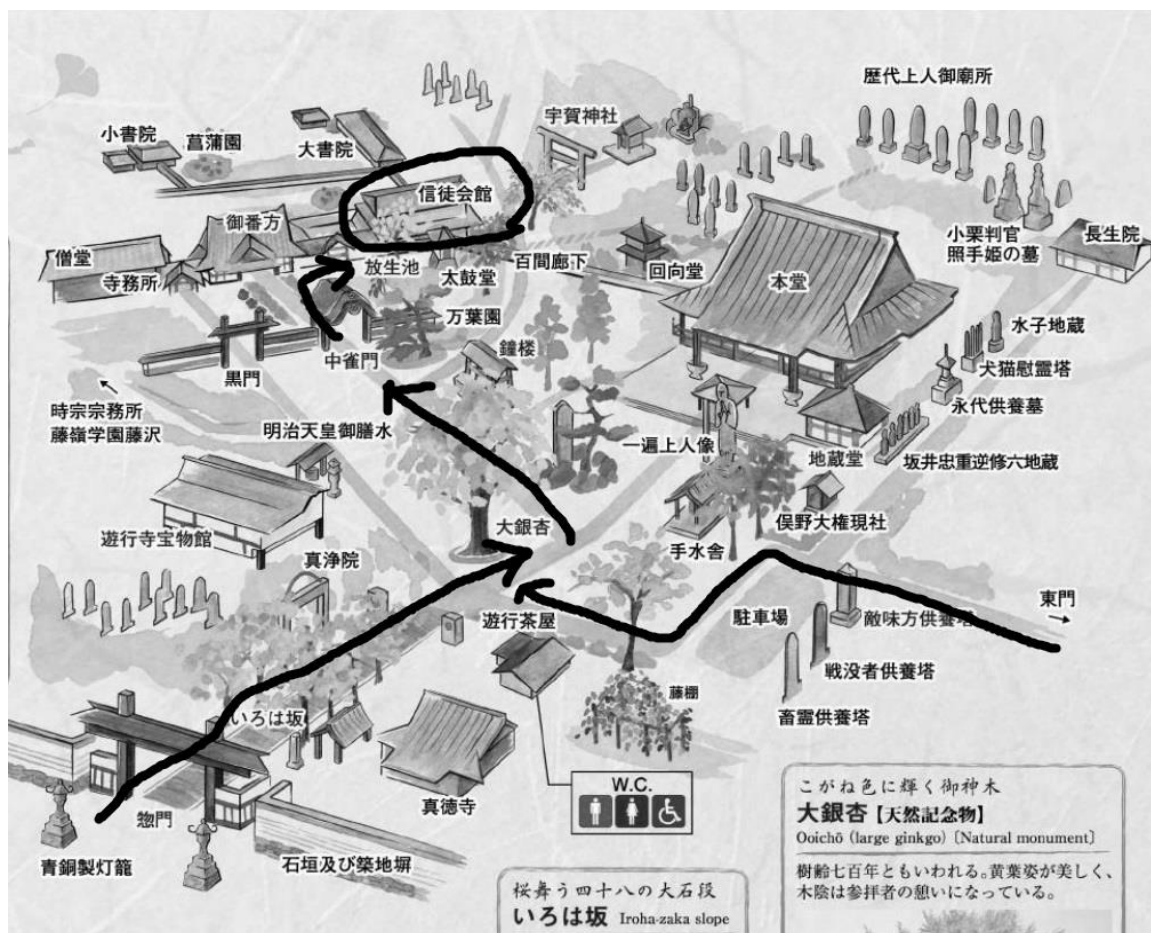
●バス:藤沢駅北口 4 番または 5 番のりば「戸塚バスセンター行」「大船駅西口行」乗車、「藤沢橋」下車

●タクシー:藤沢駅北口「遊行寺まで」とお伝えください

■藤沢本町駅より

●徒歩:約 20 分

<http://www.jishu.or.jp/> より



◆会場までの行き方／境内MAP情報

- 会場は信徒会館です。
- バリアフリーの設備はありませんが、ベビーカーや車イス利用の方は人力(4~6人)で移動のお手伝いをいたします。当日お電話ください。Tel:090-2672-8435(事務局/伊藤) or 090-4836-6219(広瀬)
- 惣門から会場までは階段がとても多いです。ベビーカーや車イスの方は東門からのアクセスをおすすめします。ただ、東門にたどり着くまでの道に急坂があるため、手動車椅子利用の際は押す人が必要です。押す手伝いに行きますので、坂のところでお電話ください。
ちなみに急坂ですがデコボコや段差がない道なのでベビーカーを押すのには向いています。とはいえ、押すのがつらかったら電話ください。
- 喫煙所はなく境内禁煙です。境内から出て、携帯灰皿で喫煙できる場所で吸う(タバコを売っているコンビニの横とか)。
- トイレは会館の1階と2階にあります。外(境内)にもあります。会館内2階を性別指定のないトイレとして使用します。